





① 事業実施報告書詳細

学校名 柏崎市立北鯖石小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
10	教室 北鯖石地区	<p>「北鯖石」のステキってどんなところ？</p> <p>北鯖石のステキについて考えた。北鯖石コミュニティセンターの見学をして、地域コーディネーターのセンター長にインタビューし、地域の探検の計画を立てた。地域探検をし、地域の歴史も調べた。</p>	 <p>北鯖石地区探検</p>	<p>探検コースは、地域ごとに子どもたちが話し合い、みんなに知らせたい場所や見せたいものを紹介できるように、自分たちで考えた。探検の途中で、その地区の子どもたちがみんなに紹介したい場所について説明する様子も見られた。</p> <p>同じ北鯖石地域でも知らない場所や知らないことがまだまだ多くあることが分かった。</p>
40	教室 柏崎市内	<p>「柏崎」のステキってどんなところ？～柏崎の四季、観光</p> <p>自分たちの知っている柏崎の場所や行事のことをもっと詳しく知ろうと話合い、探検の場所を決めた。</p> <p>赤坂山公園 えんま堂 さけのふるさと公園 アクアパーク 柿団地 夢の森公園 柏崎市立博物館 郷土料理</p>	 <p>えんま堂見学</p> <p>柿団地</p>	<p>各探検場所では個人でテーマを決めて「〇〇のステキ発見」の調査をした。自分で調べたいテーマを決めて、紹介する取組を行った。それぞれがタブレットを使い、映像や画像を工夫しながら、ポスターやパンフレット、新聞などにまとめていた。</p> <p>郷土料理については、それぞれ保護者やインターネ</p>

		<p>柏崎について情報を集め、発見したことを各自選んだ方法で情報をまとめ、発信することで、柏崎の魅力を実感していった。</p> <p>親子活動で、郷土の野菜を使った調理実習を実施した。</p>	 <p>調理実習</p>  <p>さけのふるさと公園</p>  <p>柏崎市立博物館</p>	<p>ットから情報を集め、柏崎の代表的な料理や食材について調べていた。</p> <p>調理実習は意欲や関心の高い活動となり、集中して活動していた。</p> <p>それぞれの場所でのインタビュー活動は、予想していたものよりも高度な内容が多く、子どもたちの頑張りに感心した。</p>
20	<p>教室 北鯖石地区</p>	<p><b>柏崎を紹介しよう</b></p> <p>柏崎のことを知らない人に、柏崎のステキについて紹介することになった。学級全体で紹介する内容や方法を考え、カルタにして発表することになった。グループごとにカルタを使った紹介の準備をすすめ、柏崎のいいところ発表会を開いた。</p>		<p>5・7調の音と絵カードにより楽しみながら、柏崎のよさを知ることができた。</p> <p>国語で学習したカルタ作りの経験が生かされ、工夫された言葉選びができていた。</p>

## ② 学習指導案

単元名 (全70時間)	ステキ発見！私たちの北鯖石・柏崎 全70時間
学習のねらい	柏崎の自慢やお宝を調べ、それを保護者や柏崎のことを知らない人に伝えることを通して、柏崎の「よさ」に気づき、ふるさとを大切にする心を育てる
学習内容	1 北鯖石のステキについて考える。 2 自分たちの知っている柏崎の場所や行事のことをもっと詳しく知る。 3 自分たちの知らない（よく分からない）ステキについて知る。 4 柏崎のステキを紹介する。
参考資料 準備品 実施場所等	観光パンフレット・ポスター、市立博物館、各ホームページ タブレット、メモカード、たんけんバック ○北鯖石コミセン ○地域探検 ○柿団地 ○えんま市 ○海水浴場 ○花火大会 ○夢と森公園 ○赤坂山公園 ○ブルボン ○さけのふるさと公園 ○柏崎市立博物館

### 学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
10	1 北鯖石のステキについて考える。		活動の意欲 (観察)
15	2 自分たちの知っている柏崎の場所や行事のことをもっと詳しく知る。	・柏崎について情報を集め、発見したことを新聞にまとめて柏崎の魅力を実感させる。	課題設定能力 (観察メモ)
25	3 自分たちの知らない（よく分からない）ステキについて知る。	・柏崎について情報を集め、発見したことを新聞やポスターにまとめながら、柏崎の魅力を実感させる。	課題設定能力 (観察メモ)
20	4 柏崎のステキを紹介する	・カルタ等の方法を示し、楽しく親しめる方法を指導する。	表現力（作品）

### <留意点>

交通安全に配慮する。

行動の範囲を広げるため家庭に協力を求める。

### ③ 実施内容について

#### (1) 実施にあたり工夫した点

体験を豊かにし、そこから生まれる課題意識を大切に展開した。校区内の身近な人へのインタビュー活動を行うことで、対象（柏崎の自慢やお宝）に十分かかわる時間を確保しようとした。そのことで児童の対象への興味関心を高め、活動への意欲的な取組を引き出すことができた。また、体験を思考活動へのつなげるために、その後の言語活動を大切にした。その際、一人一人の気づきを言語化するだけでなく、みんなでその気づきを話し合うような場をタイミングよく設定した。そのことで、子どもは、対象への気づきを広げたり深め、追究の意欲を高めながら活動に取り組んだ。そして、最終的に「多くの人に知らせたい」という思いが高まったところで、地域発信をしかけ、一人一人の思いのつまった「カルタ」を作成することができた。

一人一台の携帯用端末（タブレット）の活用の頻度を多くしたため、写真撮影や情報の収集の技術、プレゼンテーション技術の向上が見られた。

#### (2) 実施にあたり苦労した点

校外学習における体験活動は、実施の有無や内容を天候に左右されることが多い。計画どおりにいかないことが多々あり苦労した。

#### (3) 児童の反応

自分たちの学んだことを絵や言葉で「カルタ」にまとめるだけでなく、それを発信活動に活用しようと設定することで、子供たちの意欲が高まると同時に景観への見方や気づきが広がった。最終的なゴール（目的）を明確にすることで、調査活動やまとめの活動において豊かな感受性とコミュニケーションを最大限に生かして、よりより言葉や絵に仕上げようと取り組むことができた。

国語の俳句作りで学習した、五・七・五のリズムになれる経験が大きく生かされ、意欲的なカルタ作りとなった

#### (4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

活動を充実していくには、子供の気づきを指導者がしっかりと把握しておく必要がある。学級全体での話し合いの後、一人一人の気づき（シート等）を丁寧に見取る姿勢が見られた。

総合的な学習の時間は、ただ体験をすればよいというわけではない。体験後にどんな活動をすれば対象に対する思考が深まるのか、子供たちの「～したい」という気持ちが高まるのか、その「～したい」をどのように具現していくのか等、年間の活動をマネジメントしながら取り組んでいた。

#### (5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕

3年生は、地域を対象に総合的な学習の時間を進めている。対象が身近にあることで、たつぷりとかかわることができた。他の学年も、地域のひと・ものを対象とした学習が多く取り入れているので、地域に根差した活動となるよう、総合的な学習の時間のテーマや内容をさらに検討していくことが、今後の課題となる。